

【解説①】

■ 第1・2段落

- anthropologist: [名] 人類学者。
- diverse populations: 多様な人口。
- rely on shared assumptions: 共有された前提（暗黙の了解）に頼る。
- spell out: ～を詳細に説明する、明記する。
- The primary responsibility for ~ lies with A: ～の主な責任はAにある。

■ 第3段落

- 【設問(2)の解説】
 - 第2段落（Low-Context）と第3段落（High-Context）は対比の関係です。対比を表す *On the other hand*（他方で、これに対して）が適切です。
- homogeneous: [形] 均質な、単一民族の。（*diverse*の対義語としてよく出題されます）
- surrounding circumstances: 周囲の状況。
- 【設問(1)下線部和訳の解説】
 - ポイント1: *not necessarily*: 部分否定（必ずしも～とは限らない）。
 - ポイント2: *indicate*: ～を示す。
 - ポイント3: *polite disagreement*: 礼儀正しい不賛成（角が立たないように反対すること）。
- value A over B: BよりもAを重視する。（A=group harmony、B=individual opinions）

■ 第4段落

- interact: [動] 交流する、相互に作用する。
- immediate: [形] 即座の。
- 【設問(3)の解説】
 - 第4段落の具体例を読み取る問題です。「アメリカ人は *immediate, clear feedback* を期待する」「日本人は後でグループで話し合う（*discuss the matter as a group later*）ために黙っている（*remain silent*）」という対比が書かれています。したがって、ウが正解です。
- misinterpret A as B: AをBだと誤解する（誤って解釈する）。*interpret*（解釈する）に *mis-* がついた単語です。
- conversely: [副] 逆に。

【解説②】

■ 第5段落（結論）

- read "between the lines": 「行間を読む」、(言葉にされない) 真意を汲み取る。
- 【設問(4)並べ替えの解説】
 - 助動詞 can の後ろに、副詞 effectively を置き、動詞 minimize (最小限にする) を続けます。目的語は cross-cultural misunderstandings です。後半は and で繋ぎ、動詞の原形 build を続けます。解答は can effectively minimize cross-cultural misunderstandings and build stronger relationships となります。
- 【設問(5)内容合致の解説】
 - ア：第2段落の Historically, these countries have had diverse populations... so people could not always rely on shared assumptions. と一致するため正解。
 - イ：責任が話し手にある (The primary responsibility... lies with the speaker) のは、第2段落にある通り「低コンテキスト文化」の特徴です。
 - ウ：第3段落末尾の avoid saying "no" directly (直接「いいえ」と言うのを避ける) と矛盾します。
 - エ：第5段落で、低コンテキストの人は行間を読むことを学び、高コンテキストの人は直接的に表現するよう努めるべきだと、双方が歩み寄る必要性 (adapting to these differences) が説かれています。完全に合わせるべきとは書かれていません。